

## 【近畿ESDコンソーシアム・学生によるESD活動支援】

### あすかばんど野外活動支援 活動報告書

英語教育専修2回生 苗代 昇妥

1. 実施日 2022年9月3日(土)

2. 場所 奈良市青少年野外活動センター

3. 参加者 音楽教育専修4回生 佐藤 ころろ 教育学専修4回生 岩城 雄大  
特別支援教育専修3回生 西田 優佳里 国語教育専修3回生 川田 大登  
社会科教育専修2回生 山平 楓 英語教育専修2回生 苗代 昇妥  
幼年教育専修1回生 田中 花璃

#### 4. 活動の概要

「あすかばんど」とは、奈良市立飛鳥小学校の児童が中心となって、音楽活動を行うグループである。今回は、活動を活性化させる取り組みの一つとして野外活動が行われ、その支援を行った。参加者は、約30名であった。

レクリエーションやキャンプファイヤーを行う予定であったが、悪天候のため屋外でのキャンプファイヤーは中止され、屋内でペットボトルライトを行った。具体的な支援内容は、レクリエーションの際の補助や、ペットボトルライトでのスタントの実施である。

#### 5. 参加学生の学び・感想

私は、野外活動支援を通して、二つのことを学んだ。

一つ目は、判断をすることの大切さである。キャンプファイヤーを直前まで準備したのだが、悪天候のため取り止め、室内でペットボトルライトにより行うことにした。それを判断した主催者の対応により、全員が楽しく活動に取り組むことができた。

二つ目は、大人がお手本になることの大切さである。キャンプファイヤーやレクリエーションをする際、私たち学生や保護者が楽しむことで、場が盛り上がり、子どもたちを含めた参加者全員に一体感が生まれると感じた。また、危険を伴う活動においても、きちんと大人がお手本を見せることや安全に配慮することで、子どもたちが楽しんで活動を行うことができると考える。

自分自身の振る舞い方に気をつけ、より良い活動ができるように、今後も学んでいきたい。

(音楽教育専修4回生 佐藤 ころろ)

私が、今回の支援を通して学んだことは、状況判断に応じたプログラム変更の重要性である。

今回は、キャンプファイヤーの点火の直前に中止をするという判断が主催者によってされた。私自身、開催可能ではないかと考えていたが、ひどい雷雨に見舞われたため、素晴らしい判断だったと感じた。プログラム通りに行うだけではなく、そのときの状況に応じて臨機応変に対応することも、私たち大人の役目であると感じた。また、そのときの判断に応じて対応できる態勢を整えておくことも大切だと感じた。

今回学んだことを様々な活動で生かし、状況に応じた判断を下せるようにしたい。

(教育学専修4回生 岩城 雄大)

私は、野外活動支援に参加し、大きく二つのことを学んだ。

一つ目は、事前準備と連携の大切さである。支援をしている際、天候を考慮しながら、次の活動について学生間や主催者と話し合っていたことで、急な変更に対応することができた。私たち学生は、事前に何度もキャンプファイヤーのリハーサルを行っていたため、臨機応変に対応することができ、安全に楽しく活動することができた。

二つ目は、個と集団に対する声かけの大切さである。今回の野外活動では、途中参加の子どもや、みんなの輪に入れない子どもがいた。全体を盛り上げる声を出すだけでなく、個々の様子を見ながら声をかけることで、最後には子どもたちの顔にも笑顔が浮かび、より良い活動になったと考える。

これらの学びを今後の活動に生かしていきたい。

(特別支援教育専修3回生 西田 有佳里)

私は初めて野外活動支援に参加して大きく二つのことを学んだ。

一つ目は野外活動における判断の大切さである。この日は天候が不安定であり、火をつける直前に大きな雷鳴がとどろいた。そこで、先生が中止することを判断したのだが、その後、激しい雷雨に襲われた。このことから、安全に活動を行う上で、不安に思ったら判断を躊躇わないことの大切さを感じた。

二つ目は自分自身が本気で盛り上がることの大切さである。私や周りの学生が声を張り上げてゲームをしたり掛け声をかけたりすることで、会場に一体感が生まれ、全員が盛り上がるスタuntsができた。よって、まずは自分が本気で盛り上がるのが大切だと思った。

これらの貴重な学びを今後の活動に生かしたい。

(国語教育専修3回生 川田 大登)

私は、今回が初めての野外活動支援であった。今回の支援を通して、大きく二つのことを学んだ。

一つ目は、キャンプファイヤーの手順である。今回の野外活動では、天候不良となり屋外でキャンプファイヤーはできなかった。しかし、薪の組み方などのキャンプファイヤーを行うまでの手順を詳しく学ぶことができた。

二つ目は、一人一人が楽しむ大切さである。私は、ゲームを行うことや子どもと関わることに不安な部分があった。しかし、子どもたちが笑顔で楽しそうにスタuntsに参加したり、レクリエーションをしたりしている姿を見て、元気や勇気ももらった。不安を感じていても、私自身がしっかりと盛り上げたり、楽しんだりすることで全体の雰囲気も良くなると感じた。

今回学んだことをこれからの活動に生かしていきたい。

(社会科教育専修2回生 山平 楓)

私は、今回の野外活動支援で大きく二つのことを学んだ。

一つ目は、状況判断の重要性だ。当日は天候が不安定で、キャンプファイヤーの際、点火の直前で中止と判断された。野外活動では、天候をはじめとした様々な要素を勘案しながら進めていくことや、安全を確保するための判断をすることの重要性を感じた。

二つ目は、スタuntsの際の一体感の大切さである。今回の活動には子どもたちや大学生だけではなく、子どもたちの保護者も参加していた。スタuntsの際、年齢関係なく全員が楽しみ、盛り上がっていたため、参加者たちが大いに楽しむことが出来ていたように感じる。その場にいる全員が楽しみ盛

り上がることで、一体感が生まれ、より良い活動となることが実感できた。

今回の学びを今後の活動に生かし、より良い活動支援を行えるように努力していきたい。

(英語教育専修2回生 苗代 昇妥)

私は、今回の野外活動支援で次の二つを学んだ。

一つ目は、場つなぎの大切さである。ゲームの始めや終わりに場を盛り上げるセリフを入れることで、ゲーム進行がスムーズになっていた。ゲームとゲームの間で、このようなセリフを入れることで参加者との会話が生まれると考える。そうすることで、場が盛り上がるだけでなく、キャンプファイヤー全体につながりができ、スムーズな進行を行うことができると実感した。

二つ目は、臨機応変に対応することの大切さである。当日は、主催者が屋外でのキャンプファイヤーを中止することで、のちの悪天候に巻き込まれずに済んだ。用意してきたことを遂行することに囚われずに、その場の情報をもとに判断し、行動することの重要性に気づくことができた。

これらの学びを今後を生かしていきたい。

(幼年教育専修1回生 田中 花璃)